

厳島神社：三十六歌仙のイメージ

この6枚の絵は、江戸時代(1603～1868)のある時厳島神社に贈られた36枚の肖像画一式のうち今に残ったものですが、1516年などにも同じようなシリーズが贈られていることが記録があります。このシリーズでは、7世紀から10世紀にかけての和歌歌人のグループである「三十六歌仙」が描かれています。歌人たちは11世紀初頭、彼らの作品を編纂した有名な歌人であり宮廷の役人であった藤原公任(966-1041)により選ばれました。

このグループは鎌倉時代(1185-1333)、連続絵画の人気モチーフとなりました。これらのシリーズでは、各歌人は通常、実生活の一面に基づくことはないものの現実的な作風で描かれており、肖像は歌人の作品である有名な和歌を伴っています。これらの肖像画セットはよく絵馬の絵として、寄付者の信心の印として、そして神々を喜ばせるための贈り物として神社や寺院に贈られ、神社の敷地内で頻繁に全容が展示されました。